

2019年度 行橋市立行橋中学校 学力向上プラン

■視点1-②

《中期目標》根拠を明確にして自分の考えを表現できる生徒の育成

〈成果指標〉令和4年度の全国調査の標準化得点：国語100以上 数学95以上

《短期目標》基礎的・基本的な知識・技能を基盤に、問題解決に向け考えを表現しようとする生徒の育成

〈成果指標〉令和2年度全国調査A問題の標準化得点を国語98、数学93に向上させる。

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

- ・「行中ノート」に授業のまとめ、授業のポイントを整理させる。
- ・「行中ノート」の取組の良い生徒や取組の具体例を通信等で紹介する。

〈成果（指標）〉

- ・質問紙調査「家で学校の復習をしている」の結果前年度比+10

■視点2

【授業づくり】

【基礎的・基本的な知識・技能の定着】

〈取組（指標）〉

- 全教科で「めあて」と「まとめ」のある授業を行い、「ふり返り」で学習した内容について自分の言葉で書かせる。「行中スタンダード」の徹底

〈成果（指標）〉

- ◆授業の「ふり返り」があったと回答した生徒の平均値が3.0以上(生徒アンケート：4段階評定)とする。

【問題解決に向けて、自分の考えをもち、表現する力の育成】

〈取組（指標）〉

- 「講義説明型」「訓練鍛錬型」「問題解決型」の授業スタイルを組合せた「単元マップ」を作成し、習得した知識・技能を活用する授業を実践する。

〈成果（指標）〉

- ◆「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した生徒の平均が3.3以上(生ア：4段階評定)

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組（指標）〉

- ・定期考査で、思考力、判断力、表現力を問う問題(検証問題)を1題以上作成する。
- ・「単元マップ」を基にした検証授業を年間2回(うち1回は公開授業)実施する。
- ・校区内小中合同教務担当者会の実施(年間6回)

〈成果（指標）〉

- ・「生徒の学力は向上しつつある」と解答した教師の平均が3.3以上(教師ア：4段階評定)

■視点3

【学力基盤づくり】

〈取組（指標）〉

- ・「行中ノート」を毎日提出させる。(全学年対象 提出率90%以上 未提出者も必ず行わせる。)
- ・モジュールタイムで繰り返し学習を行い、毎週まとめテストを実施し不合格者には補充を実施。

〈成果（指標）〉

- ・「行中ノート」の取組の成果について掲示したり、通信等で紹介したり、表彰したりする。
- ・モジュールタイムのまとめテストの合格率が80%以上

■視点1-①

全国学力・学習状況調査結果及び児童生徒による授業評価から見た課題

要因（授業づくりやその他学校の学力向上の取組）

標準化得点	国語A	国語B	数学A	数学B	・根拠をもとに説明する問題に課題 ・語句や公式等基礎的な知識・技能の定着に課題 ・説明や記述の問題の無解答率が高い。
	94.5	93	88	84.4	
質問紙調査等	・家庭学習が30分未満の生徒が多い。(全国比-13.4) ・課題に対して主体的に取り組む学習の不足(全国比-15.1) ・発表の際、自分の考えが伝わる工夫が不足(全国比-10.7) ・全国学調質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」(全国比-12.9)				

・基礎的・基本的な知識・技能の反復練習が不十分。 ・定期テスト等でわからなかった問題に対する補充的指導が不十分。 ・問題の解き方や考え方を十分にまとめることができていない。 ・見通しをもたせ、考えを表現させる問題解決学習が十分でない。 ・課題設定や自己決定の場面、共同作業やふり返りの場の不足。
